

## 上士幌町教育研究所

所長 山 田 圭 介（上士幌町立上士幌小学校長）

### 1 研究所の組織・運営について

役 職	氏 名	所 属	担当業務
所 長	山 田 圭 介	上士幌小学校長	北海道教育研究所連盟関連事業業務
副所長	小 野 つかさ	上士幌小学校教頭	十勝教育研究所事業関連業務、所員会議
所 員	稲 場 麻 里	上士幌小学校教諭	学力・icheck
所 員	中 川 弥 生	上士幌小学校教諭	IB ノート・キャリアパスポート、家庭学習
所 員	杉 浦 亜 弓	上士幌小学校教諭	学習規律、十勝教育研究所事業関連業務
所 員	山 内 崇 徳	上士幌小学校教諭	ICT、プログラミング教育
所 員	古 田 ひとみ	上士幌小学校教諭	郷土読本（副読本）
所 員	俵 口 修 治	上士幌中学校教諭	ICT、プログラミング教育
所 員	尾 崎 寛 明	上士幌中学校教諭	IB ノート・キャリアパスポート、家庭学習
所 員	田 中 直 人	上士幌中学校教諭	学力・icheck
所 員	岩 淵 敏 幸	上士幌中学校教諭	学習規律
所 員	赤 江 哲 平	上士幌中学校教諭	学力・icheck
事務局	大 原 拓 人	上士幌町教育委員会	総務

### 2 事業計画

事業内容	詳細
(1) 標準学力検査、icheckの分析・交流	小・中学校での分析結果の交流（3月）
(2) 家庭学習の手引きの発行・改訂	5月に配付、2月に改訂
(3) 学習規律の取組	4月に掲示ポスター（年度の重点課題）を発行し、毎月の児童アンケートで検証
(4) 情報教育	・ICT活用とプログラミング教育に係る授業交流と研修会の開催 ・校内でのタブレット利用のルールづくり及びICT推進教師による情報モラル教室の実施（年2回） ・町P連と連携した「ノースクリーンデー」の取組の推進
(5) かみしほろ学の推進	・3・4年生版郷土読本の見直し ・総合的な学習の時間の教育課程の見直し
(6) iB ノート、キャリア・パスポートの見直し	デジタル化も含め使いやすいノートとなるよう見直し
(7) 十勝教育研究所事業への参加	十勝管内教育研究所所員研修会及び教育講演会等への参加
(8) 共同研究事業への積極的な参加・協力	共同研究員の派遣、研究発表大会への参加
(9) 北海道教育研究所連盟事業への参加	道研連及び道東研への参加
(10) 所員会議の開催	担当者会議を随時開催
(11) 研修会の企画・運営	（R5：「自己肯定感の向上に係る研修会」を実施）

### 3 研究課題及び研究の取組の概要

#### (1) 研究課題

「上士幌町の教育目標の具現化を目指し、本町教育の今日的課題の解決に向けて」  
～自分で考え、自分で決めて、自分で行動する児童（自己指導力ある子ども）の育成に向けて～

#### (2) 研究の取組の概要

- ①町教育研究大会を中心とした授業研究
- ②児童生徒の学力の状況の分析結果を基にした種々の取組
- ③研究紀要等の刊行物の発行

### 4 事業実践上の課題

- ・学校間での取組に対する温度差が見られる  
→小・中で共通した課題を明確にし、テーマを統一した研究を推進していく計画

# 令和6年度 新得町教育研究所

所長 池田圭子

## 1 活動方針

- (1) 新得町における教育の進展改善に資するため、教育研修資料の収集や教育の専門的事項の調査研究を進めるとともに、実践的研修機会および教育実践に役立つ資料の提供に努める。
- (2) 教育研究所員が研修を深め、本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、関係各機関との連携をよりいっそう強め、研究・研修の質の向上を目指しその課題解決に努める。

## 2 事業内容の概要

- (1) 学校教育の情報化（児童生徒一人一台端末の効果的な活用について）
  - ・児童生徒のICT活用能力を高める授業改善
  - ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのICTの活用
- (2) 各種調査研究
  - ・標準学力調査の結果データ等の分析と活用
- (3) 小学校社会科副読本の改訂に向けた研究・研修
  - ・小学校社会科副読本の改訂に向けた予備調査
  - ・編集作業（R6年度末に完成）
  - ・令和7年度より副読本のデジタル化
- (4) ふるさと教育の充実
  - ・町内各地区の「ふるさと教育」系統表の見直し
- (5) 広報事業
  - ・「所報」の発行 年2回（9月上旬・2月下旬予定）
- (6) 十勝教育研究所事業への参加
  - ・十勝管内教育研究所所員研修会への参加
  - ・教育講演会への参加
- (7) 共同研究事業への積極的な参加・協力
  - ・共同研究員の派遣
  - ・研究発表大会への参加
- (8) 北海道教育研究所連盟事業への参加
- (9) 所員会議の開催（年9回を予定）
- (10) 町内研修会の企画

## 3 本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

- (1) 小学校社会科副読本「しんとく」の改訂、発刊（デジタル）
- (2) 「ふるさと教育」系統表

## 4 実践上の課題と取組

- (1) 1人1台端末の効果的な活用をするため、プログラミング教育も含めた研修・実践を深めていく。小・中学校の実践上の課題を検証、改善点を明らかにし課題解決に沿った研修を実施する。
- (2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による授業改善のための研修会等を企画する。

## 5 その他

- (1) 所員会議は月1回開催し、所員は、教育の情報化（ICT）と所報の2グループに分かれ各活動を推進。また、副読本・「ふるさと教育系統表」・各種調査研究は全員で取り組む。

## 令和6年度 芽室町教育研究所 事業計画

### 1 活動方針

- (1) 教育研究所員の研修を進め本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、その課題解決に努め教育の充実に資する。
- (2) 教育研究資料の収集や調査研究を進め、町内各学校の教育実践に役立つ資料の提供に努める。

### 2 事業推進内容

- (1) AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む授業研究 (継続)
  - ～「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる授業」の実現～
  - ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成するため、ICTを活用した「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的充実に図る授業の構築
  - ・各ソフトウェア（Qubena、LifeisTech、Classroom等）活用の実践検証
  - ・「指導の個別化」と「学習の個性化」を実現する授業形態の実践検証
  - ・小中9年間の発達段階に応じた情報活用能力の評価基準の作成
- (2) めむろ未来学の検証改善について (継続)
  - ・子どもが「ワクワク・ドキドキ・芽室にクギツケ」になる探究・提案・発信型の学びへの改善・充実（カリキュラムに対応する実践例の蓄積）
  - ・食農教育の実践検証（指導案の蓄積）
- (3) 小学校副読本について (新規)
  - ・改訂作業
- (4) 十勝教育研究所共同研究への協力 (依頼連携)
  - ・十勝教育研究所共同研究 — 研究員派遣
- (5) 各種研究会・研修会への参加
  - ・道東地区教育研究所所員研修会、十勝管内教育研究所連絡協議会所員研修会への参加
  - ・教育講演会への参加 (毎年実施)
  - ・十勝教育研究所研究発表大会への参加
  - ・とちか教育講演会、教育講演会への参加
  - ・全道教育研究所所員研修会への参加
  - ・その他各種研究会・研修会への参加（所員研修 道研、先進地域等への視察研修）
    - ◎所員研修 道研等 ◎先進地域等への視察研修

### 3 本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

- ・研究所報の発行 2回（7月・3月）

### 4 所員の構成と任務

役職	氏名	学校名	主な業務内容
所長	椿原雅章	芽室西小学校	総括渉外
副所長	和田秀治	芽室南小学校	事務局各種研究会関係
所員	松井孝之	芽室小学校	授業研究・めむろ未来学・小学校副読本
〃	長野隆宏	上美生小学校	授業研究・めむろ未来学・小学校副読本
〃	石田学	芽室西小学校	授業研究・めむろ未来学・小学校副読本
〃	中村俊太	芽室南小学校	授業研究・めむろ未来学・十勝教育研究所共同研究
〃	川人美波子	芽室中学校	授業研究・めむろ未来学
〃	大島護	上美生中学校	授業研究・めむろ未来学
〃	渡邊優美	芽室西中学校	授業研究・めむろ未来学
会計	林宏明	町教育委員会	会計業務

\* 十勝教育研究所への共同研究員の派遣。

### 5 事業実践上の課題

- (1) AIドリル「Qubena」の活用と学力向上に相関があるかを検証する。
- (2) AI時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む3:7の学びを実践検証する。

## 令和6年度 更別村教育研究所の事業

更別村教育研究所所長 長 澤 啓 二

### 1. 更別村教育研究所における運営

#### (ア) 活動方針

- ① 更別村の教育の今日的課題を明らかにするとともに、学校教育実践上の課題についての調査研究を進め、教育推進の充実に資する。
- ② 各学校の教育実践に役立つ資料等の収集・提供に努める。
- ③ 所員の研修を深め、資質や能力の向上に努める。

#### (イ) 所員構成・担当

役職	氏 名	所	属	担当
所長	長 澤 啓 二	上更別小学校	校長	全体統括 幼保小中連携
副所長	山 野 圭	更別小学校	教頭	所報 副読本 研究のまとめ
所員	稲 見 千鶴子	更別小学校	教諭	副読本ワーク
所員	高 橋 純	更別小学校	教諭	副読本ワーク
所員	原 田 憲 未	上更別小学校	教諭	十勝教育研究所共同研究員
所員	松 林 一 彦	更別中央中学校	教諭	いじめ不登校 QU調査
所員	亀 谷 知 樹	更別中央中学校	教諭	いじめ不登校 QU調査
所員	伊 藤 啓 展	更別村教育委員会	指導参事	二村研修会
協力員	仲 野 公 章	更別小学校	教諭	副読本ワーク
協力員	高 城 辰 志	上更別小学校	教諭	副読本ワーク

### 2 研究・講座への取組

- ① 二村連携研修（令和6年度 生成 AI 等の活用研修）
- ② 更別村教育研究所 ICT実践研修会
- ③ 道東所員研・十勝管内教育研究所所員研修会
- ④ 十勝教育研究所研究発表会

### 3 今年度の研究所運営の重点

- ① 更別の子どもの学力についての実態調査及び分析
- ② 社会科副読本「さらべつ」振り返りワークの作成
- ③ 児童生徒の生活習慣の充実に向けた取組
- ④ 研究所便り「所報」による情報提供
- ⑤ 十勝教育研究所及び他町村との連携、協力
- ⑥ 幼保小中連携実践記録の作成
- ⑦ 「いじめ」「不登校」未然防止の研究
- ⑧ 研究紀要「研究のまとめ」の発行
- ⑨ 授業改善、ICT活用に関する研修会の実施

# 幕別町教育研究所

所長 浪内 洋一

(幕別町立忠類小学校長)

## 令和6年度 事業計画

### 1 活動方針

- 1 本町における教育の進展改善に資するため、教育研修資料の収集や教育の専門的事項の調査研究を進めるとともに、実践的研修機会および教育実践に役立つ資料の提供に努める。
- 2 教育研究所員が研修を深め、本町教育の今日的課題を明らかにするとともに、関係各機関との連携をよりいっそう強め、研究研修の質の向上を目指しその課題解決に努める。

### 2 事業内容

#### 1 研究・研修

- (1) 生徒指導の機能を生かした学級・授業づくりの研究・研修  
①Q-Uを活用した集団づくりに関する研究 ②Q-Uテストへの理解を深める研修
- (2) 学校ICT利活用推進に関する研修  
①GIGA スクール構想、学校DXに係る調査研究  
②一人1台端末活用推進に係る研究 ～ ロイロノートの利活用について
- (3) 幕別町の子どもの学力についての研修  
①学力調査による分析 ②十勝管内教育研究所所員研修会「学び部会」提言
- (4) 学校ミドルリーダー育成に向けた研修  
①学校教育における諸課題の解決に向けた研修  
・小中一貫、C・S ・学校地域協働活動 など

#### 2 各種調査研究への協力

#### 3 広報事業

- (1) 「所報」の発行 No.84 (10月上旬) ・ No.85 (2月下旬)
- (2) 「研究紀要」の発行 (2月下旬)

#### 4 十勝教育研究所との連携

- (1) 共同研究への参加と研究成果の還流 (所員の派遣：十勝研究所からの依頼を校長会で調整)
- (2) 研修会等への参加

#### 5 北海道教育研究所連盟との連携

- (1) 研修会等  
①連盟総会及び所長研修会 ②教育研究所夏季所員研修会 ③北海道教育研究所連盟研究発表大会

#### 6 その他

- (1) 研修会等  
①「こだまの会」主催の研修会 ②十勝管内教育委員会連絡協議会研究指定校発表会

### 3 所員の構成

- ・所長、副所長各1名、所員8名、計10名、その内1名が、十勝教育研究所共同研究員

### 4 所員会議・研修会議の計画

- ・月1回 15:00～開催

# 令和6年度 池田町教育研究所

所長 稲葉 珠樹

## 1 研究所の組織・運営

	役職	氏名	所属校	
1	所長	稲葉 珠樹	池田小学校	校長
2	次長	田村 浩文	池田小学校	教頭
3	所員	堂藤 嗣郎	池田小学校	教諭
4	所員	名越 正道	池田小学校	教諭
5	所員	片岡 真伸	池田小学校	教諭
6	所員	政所 知恵	池田中学校	教諭
7	所員	渋谷 真	池田中学校	教諭
8	所員	織田 勇進	池田中学校	教諭

## 2 事業計画の概要

- ①教育計画、教育内容及び教育方法の調査研究に関する事項
- ②教育関係資料の収集及びそれらの研究に関する事項
- ③図書、研究物、研究資料の購入及び編集等に関する事項
- ④教職員の研究に関する事項
- ⑤研究相談に関する事項
- ⑥その他教育振興に関する事項

## 3 研究課題及び研究の取組の概要

### (1) 小中一貫教育の推進に関する研究

#### ①主な活動内容

- 小中一貫教育の導入・推進
  - ・先進校の視察・情報収集
  - ・検討部会での協議内容等の調整
  - ・推進に向けた取組方策の取りまとめ

#### ②活動内容の詳細

- 小中一貫教育の推進
  - ・小中学校教員による授業交流及び合同授業の実施
  - ・6学年児童の中学校訪問の実施  
(5月-体育祭総練習、9月-意見発表会、10月-合唱発表、11月-授業見学・授業体験、  
\*2月-新入生説明会・部活動見学) \*中学校管轄
  - ・中学校において6学年児童に対する小学校教員の授業の実施
  - ・学習規律「池田っ子 学習のきまり」の検証・改善
  - ・社会科副読本の編集完了

### (2) 広報事業

- ①「池田町教育研究所だより」の発行配布(7月・3月)

### (3) 十勝教育研究所との連携

- ①共同研究への参加と成果の環流(共同研究員として所員派遣)
- ②十勝管内教育研究所連絡協議会・所長研修会 5月30日(研修センター)
- ③十勝管内教育研究所所員研修会 7月 4日(中札内)
- ④道東地区教育研究所所員研修会 8月27日~28日
- ⑤道研連研究発表大会 8月29日~30日
- ⑤教育講演会 11月13日
- ⑥十勝教育研究所研究発表大会 2月 6日

### (4) 研究に関する資料収録

- ①研究に関するまとめ(2月下旬)

## 4 事業実践上の本研究所の特色

昨年度から、池田町は令和7年度の小中一貫教育の本格導入、さらに令和10年度の義務教育学校設置に向けての取組を推進している。そこで、本研究所は、小中一貫教育の導入・推進を主たる研究に位置付け、その取組をサポートする機能として「小中一貫教育推進等調整会議」の役割を担っている。調整会議では、本研究所の所員が主なメンバーとなり、一貫教育各検討部会での協議内容をもとに、小中学校及び教育委員会の意思疎通を図りながら、今後の取組の方策及び方向性を確認している。

# 豊頃町教育研究所

所長 小副川 浩

## 1 令和6年度 豊頃町教育研究所運営方針

### (1) 研究主題

「報徳のおしえ」を礎とした豊頃の特色ある教育資源を生かし、  
知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む学校教育の在り方を求めて

～学校教育と家庭及び地域における実践・評価の一体化の探求～

### (2) 基本方針

豊頃町の今日的な教育課題を受け、その解決のための方策及び各校の教育実践に有用な教育研究に努める。

### (3) 活動重点

- ① 町教育行政執行方針の具現化に向けた調査・研究
- ② 町内各校の教育上の課題・要望等に応える資料収集及び提供
- ③ 町内小中学校の教育連携、接続の在り方の探求
- ④ 十勝管内外の教育研究機関との連携及び研修機会の活用

## 2 年度教育研究事業及び担当

	業務	主な内容
1	学力・体力向上に関わる研究	・家庭学習の手引き ・確かな学力の定着化の方策研究
2	小中連携に係る情報収集・資料提供	・管内小中連携先進実践校の活動例交流 ・道内外の義務教育学校への視察研修幹旋
3	報徳のおしえが生きる授業支援	・授業づくりを支援する情報提供 ※過去実践事例の系統的まとめ等
4	I C T活用教育について	・I C T機器を活用した授業づくりを支援する情報提供 ・教育実践の交流
5	社会科副読本資料集	・令和3年度版副読本の改訂作業
6	広報活動の実施 研究紀要の作成	・7月：巻頭言、活動方針、業務内容、 所員紹介 ・3月：巻頭言、活動報告、情報提供等 ・3月：豊頃町の教育 発刊
7	十勝教育研究所共同研究	・研究員としての所員派遣

## 3 豊頃町教育研究所組織構成

所長 小副川 浩 (大津小 校長)	所員 添田佑生子 (豊頃中 教諭)
次長 中野 真一 (豊頃小 教頭)	事務局長 森 直史 (教育委員会教育課長)
所員 大山千歌子 (豊頃小 教諭)	事務局次長 福田 茂 (教育推進員)
所員 加藤飛露実 (豊頃小 教諭)	共同研究員 近藤 正晃 (豊頃小 教諭)
所員 金 隆義 (大津小 教諭)	共同研究員 外山 裕士 (大津小 教諭)
所員 竹中 悠 (豊頃中 教諭)	

## 浦幌町教育研究所 所長 安齋 亮太

設置主体： 浦幌町教育委員会	設立年月日： 平成11年4月
所在地：十勝郡浦幌町字宝生171番地1（〒089-3578）	
電 話：015-576-6022	F A X：015-579-4755
E-mail：kamiuraj02@urahoro.sakura.ne.jp	

### 令和6年度 浦幌町教育研究所事業計画

#### 1 活動方針

- (1) 小学校社会科郷土読本「うらほろ」の編集の推進（2年計画）（令和6～7年度）
- (2) 浦幌の子どもの学力向上の推進
- (3) 所報を継続発行し、教育関連の情報提供や研究所事業の啓発に努める。
- (4) 教育関係機関の研究に積極的に参加し、各校に還元する。

#### 2 事業計画

- (1) 小学校社会科郷土読本「うらほろ」の編集の推進（2年計画）（令和6～7年度）

浦幌町教育委員会では、学習指導要領のもとで小学校3年及び4年生が教科書と併用して浦幌町を学ぶ社会科郷土読本を発行してきた。

令和6年度からは、新しい教科書により学習をすることになるが、新しく郷土読本を編集する必要があるのか、浦幌を学ぶための資料集の編集でよいのかについて調査・研究を行う。

##### ①郷土読本を編集する場合

郷土読本の編集（冊子版ORデジタル版）

##### ②郷土読本を編集しない場合

郷土資料集の編集（デジタル資料も含む）

- (2) 学力分析資料「浦幌の子どもの学力」の発行

浦幌町では、令和5年度より東京書籍の標準学力調査に移行したことにより、新しく浦幌の児童生徒の学力に関して分析する必要になった。分析資料の発行は全町規模で子どもの学力を把握することができ、各学校において授業改善や校内研修の資料として活用できるように調査・研究していく。

- (3) 浦幌町教育研究所「所報」の発行

教育研究所の事業内容の理解、教育情報の提供、学校間の連携に役立てる。

- (4) 浦幌町教育研究所の事業内容および組織等の見直しと検討

教育研究所の事業内容、運営組織について検討を加え、望ましい運営を図る。

- (5) 十勝研究所および他町村研究所等との連携、協力

各研究所と連携し、研究交流を行うとともに、十勝教育研究所の共同研究に対する協力をを行う。

- (6) 各種教育研究所研修会への参加

- ・小中一貫コミュニティ・スクール先進自治体（学校）との交流
- ・十勝管内教育研究所所員研修会 兼 道東地区所員研修会
- ・教育講演会 ・十勝教育研究所研究発表大会 ・その他

#### 3 本年度発行予定の研究紀要および研究資料

- (1) 小学校社会科郷土読本「うらほろ」の作成（2年計画1年目）
- (2) 学力分析資料「浦幌の子どもの学力」発行
- (3) 浦幌町教育研究所「所報」の発行（年2回～7月、3月）

# 本別町総合教育研究所

所長 舘 英樹

## 1 研究所の組織・運営について

### (1) 学校教育部

- ・所員 各学校から
- ・教育委員会指導員
- ・所長 小学校長

### (2) 社会教育部

- ・地域住民
- ・教育委員会指導員
- ・所長在籍校教頭

## 2 令和6年度事業計画の概要

学校教育部	社会教育部
①本別町の児童・生徒の学力向上の取組支援 ②本別町小・中・高等学校の総合的な学習の時間の検討 ③所報『還流』の発行（10月・2月予定） ④既刊紀要・研究成果等の活用促進、研究図書 の購入・管理 ⑤十勝教育研究所との連携（共同研究員） ⑥所員研修の推進 ⑦その他	①「ほんべつ学びの日」の推進に関する改善・充実 ②社会教育活動先進地等の視察・研修 ③十勝教育研究所との連携 ④その他

## 3 研究課題及び研究の取組の概要

- ・各種調査等の分析
- ・AIドリルの活用について など

## 4 事業実践上の課題

- ・学校教育部と社会教育部に分かれていることから、所員が集まることができる日程が異なり、運営が困難である。

## 1 活動方針

- (1) 陸別町の各校が直面する教育課題の解決に役立てるため、調査・研究事業を推進する。
- (2) 研究所事業の内容充実と所員の資質向上を図るため、管内、道東で開催される研究所員等を対象とした研修事業に参加する。

## 2 事業計画

- (1) 陸別の子どもの学力調査
  - \* 昨年度の算数・数学に続き、他教科でも学力検査等の結果を基に、系統表を作成する。
  - \* 調査結果については、教育課程の改善資料として各学校に提供する。(平成21年度より)
- (2) 陸別の子どもの体力調査
  - \* 小・中学校での体力テストの結果を基に、傾向を調査して、その実態を把握する。
  - \* 調査結果については、活用できるよう各学校に配布する。
- (3) 陸別町小・中学校一貫教育推進事業への協力
  - \* 小・中学校一貫教育に関する資料を収集して各学校に提供する。
- (4) 十勝教育研究所事業への協力・・・小学校主体
  - \* 高松ななみ (陸別小学校) : 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員
- (5) 「研究所だより」の発行(7・3月予定)
- (6) 研究所員等を対象とする研修会への参加
- (7) 家庭学習の手引き・『陸別学習プラン』『陸別生活プラン』活用の検証
- (8) ICT教育の推進
  - \* 小中一貫教育推進委員会研修部会との連携を深め、ICT活用に関する情報を収集する。

## 3 本年度発行予定の研究紀要、まとめ等

- \* 事業計画(1)(2)に関する資料を作成予定

## 4 所員名・所属名・分担等

職名	氏名	所属学校	主な分担業務
所長	小田 浩平	陸別小学校	全体統括
副所長	金子 信隆	陸別小学校	庶務、記録集作成、所報の発行
所員	高松 ななみ	陸別小学校	調査、資料作成、共同研究員
所員	永山 凜	陸別中学校	調査、資料作成

## 5 研究課題及び研究の取組の概要

### (1) 研究テーマ

主体的な学びのプロセスを育成する授業づくりを目指して

～指導の個別化と学習の個性化を軸とした授業改善～

<陸別小学校・陸別中学校共通研修テーマ>

### (2) 取組の概要

【陸別町小中一貫教育推進委員会研修部（陸別小学校・陸別中学校研修部）と連携】

#### \*グループによる授業改善・前期（4～7月）

- ・グループ討議
- ・プレゼン作成「主体的な学びのプロセスを育てるために必要なこと」
- ・プレゼン発表・交流・講評

#### \*グループによる授業改善・後期（8月～）

- ・グループごとの授業案検討
- ・町研、指導主事訪問における授業公開、研究協議
- ・「りくべつスタンダード」の設定

#### ◎研修で目指す姿◎

○子どもの学びの姿の相似形として、  
新しい知識・技能等の獲得を目指して  
主体的に学び続ける教師集団



#### 第1回小中合同研修会

5月8日（水）に行われた小中合同研修会では、小・中の校種を越えて多くの意見交換をすることができました。

今年度の研究テーマは「主体的な学びのプロセスを育成する授業づくりをめざして」です。

子ども達は、主体的な学びを行うことができているのか？ 自らの学びをどのように行なっているのか？ 理解しており、行動しようとしているのか？ その過程（プロセス）を私達教師は、どのようにデザイン、アプローチ、コーディネートしながら育てていくのか？ そういった視点が重要になると考えられます。中心となるのは「子どもの状態や変化」であり、いくら教師が「いい授業を行なった」と感じたとしても、自己満足に陥らず、客観的な視点で子どもを観察する必要があります。そこには、校種・経験年数・教科などは関係ありません。学習者の立場に立って考えることが大切であり、私達教師も、昔は先生に教えられる学習者でした。その時の気持ちや想像を思い出しつつ、研修に取り組みたいと思います。



主体的な学びを子ども達に促すためにも、まず私達が主体的に学んでいきましょう！



堀田研修部長の魅力的なスライド資料。Canvaを使って作成しています。小中一貫合同研修サイトからダウンロードできますので、是非一度ご覧いただきたいのは、そちらからどうぞ！

#### 小中一貫合同研修サイト

この度、小中一貫合同研修を行ったデータ等を共有・保存し今後の研修をより円滑に行えるように、SharePointで小中一貫合同研修のサイトを制作しました。研修資料や研修部連携をそれぞれにアップする予定ですので、右のQRコードから、アクセスしてみてください。



見るためには Microsoft アカウントでのログインが必要になります。中学校の先生は ed、JHS どちらのアカウントでも見ることができます。

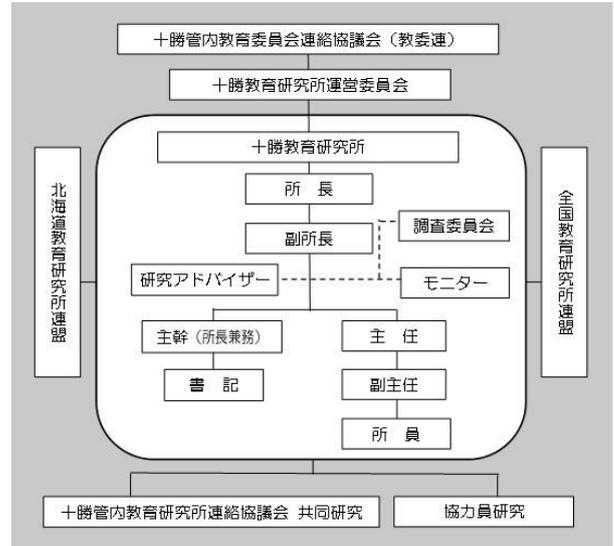
令和6年度道東地区教育研究所所員研修会所長部会交流資料

十勝教育研究所長 山田 洋

1 研究所の組織・運営について

(1) 運営の基本方針・機構

十勝教育研究所が十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関であるという性格に立ち、各市町村教育委員会をはじめ、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査研究、研修活動、資料提供等を通して、教職員の人材育成、十勝管内の教育の充実、発展に尽くすことを基本方針とする。



(2) 構成

所長、副所長、書記、所員（5名）、共同研究員（19名）、研究協力員（2名）

2 令和6年度の事業計画の概要

(1) 研究機関としての研究

① 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究

自分の考えを表現し合い、学びを深める子どもを育む研究  
～考えを広げ深める対話の工夫と、学びをつなげる振り返りを通して～

管内19市町村のすべての教育研究所と十勝教育研究所が一体となって進める授業実践を通じた研究

② 十勝教育研究所協力員研究

他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究  
～日常モラルを生かした学習内容と一人一人が意思決定する学習展開の工夫を通して～

管内18町村の小・中学校各1校の協力を得て進める授業実践を通じた研究

(2) 関係機関との連携

全教連、道研連、道東・管内教育研究所連絡協議会との連携

(3) 教育相談・資料の提供

教育研究相談、学習指導資料「十勝の子どもの学力」発刊、広報誌「十勝教育研究」（年間3冊発刊、うち1冊分はweb ページで提供）、カリキュラム支援センター、Web サイト運営（ホームページのリニューアル作業）、研究紀要、教育関係職員録発行

(4) 講演会・研修会の開催

十勝管内教育研究所所員研修会（中札内村）、教育講演会（オンライン開催：講師は高橋純氏を予定）、研究発表大会（2月開催、共同研究・協力員研究成果発表）、授業づくり講座2本（教育研修センター講座とのタイアップ、共同研究・協力員研究成果に基づいた授業づくり講座）

3 事業実施上の課題

- ・（新しい研修観での研究所の役割）先生一人一人に届くデジタルデータでの資料提供への転換
- ・（研究成果の往還）調査研究成果に基づく授業づくりを教室で生かす
- ・（予算確保と人材育成）研究所員自らが学ぶ機会の確保、教育研究の必要と魅力の理解浸透
- ・（業務バランス）研究所業務と学校業務の両立、研究所業務内容の焦点化と効率化